

第10次厚木市総合計画第1期実施計画の振り返りに対する
各委員からの意見（意見提出用紙）

○第1期実施計画全体に対する評価について

- ・第1期実施計画については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、たえず進行管理に創意工夫を重ねられ、毎年度、市民満足度や各種事業の達成率等から効果を図ることにより、実態に即した精度の高い評価に努められたことを評価します。この仕組みづくりを重ねることにより、市民にわかりやすく、現場の職員の目標も明確となり、時代の変化を敏感にキャッチし、その時々に応じた課題の抽出を行うなど、施策の方向性を確認しながら、より柔軟に計画が進められたものと考えています。

一方で、実施計画の取組実績全体を経年変化とともに俯瞰してみますと、行政主導で実施できる部分は比較的順調であるように見受けられますが、社会環境の変化、とりわけ少子高齢化と高齢者の超高齢化（前期高齢者は減少傾向にある反面、後期高齢者の大幅増加）が様々な面で影響を与えているように思います。「災害に強いまちの実現」「誰もが生活しやすいコンパクト・プラス・ネットワークの推進」など、行政として努力を重ねながらも超高齢化のスピードに追い付くのだろうかという懸念を感じています。

また、行政の仕事には極めて多様なニーズをどう判断し、どうバランスをとって実行していくのかといった部分が求められ、ある市民にとっては無用と思われる施策でも、他の市民にとっては命綱となる施策も多々あります。それらを数字でわかりやすく示すことは至難の業で、正解はないと考えます。だからこそ、市民ニーズの変化を的確に捉え、必要な施策を取捨選択し、市民に分かりやすく伝え続ける姿勢を持ち続けていただきたいと願っています。

- ・3年間の事業実施期間「魅力あるまちづくりを実現するための基本施策の全27項目」では、新型コロナウイルス感染期間中の年度もあり予定通りの事業実施がスムーズにできなかった状況も超え、短期間で多岐に渡る事業項目で総合的な評価として「A」の割合が7～8割となったことは高く評価します。一方、総合評価「C」となった3つの項目については、更なる方法の再検討や促進を行い達成度アップに向けて努めていただきたい。

○まちづくりのビジョンごとの評価について

（1）ビジョン1 安心政策

意見なし

(2) ビジョン2 輝き政策

- ・基本施策4「多様性の尊重と平和都市の推進」について、これからの時代はますます個人の多様性を重んじる時代になることから、市民の多様な生活に対応できるような施策（事業）を新しい視点（角度）から進めていく必要がある。また、戦争の悲惨さを後世に伝え受け継ぎ、平和な生活のありがたさを理解できるような啓発（教育）を進めてもらいたい。
- ・基本施策4「多様性の尊重と平和都市の推進」の施策では、2年連続で「総合評価C」となった。基本計画の取組方針では、「平和について理解を深めるための取組の推進」となっていたが、振り返りの中ではこの推進項目についての取組内容がなかったこともあり総合評価の結果Cになったのではないかと推測します。特に現在の世界状況を鑑みて“平和”については命と財産を守ることをグローバル的に考え実行していくことが必要であると考えます。

(3) ビジョン3 成長政策

- ・基本施策4「生涯スポーツの振興」について、スポーツや文化の魅力を幅広く市民に伝えるとともに、参加して楽しいと思えるイベント（行事）をさらに実施できると良い。そのためには参加者が集う環境整備、施設の整備（例えば暑さ寒さ対策のエアコンの設置等）を100%実施していく必要がある。

(4) ビジョン4 発展政策

- ・基本施策7「シティプロモーションと定住促進」については、本市は「人と物が集まるまち」として潜在的な地理的要素を備えており、「産業拠点のまち」であり今後さらに発展が注目されているAI、IoT、DX事業に関する先進技術系、通信系、研究所、製造業他など知名度の高い大企業も集中して存在している。この本市の特徴は「雇用の場」から「定住の場」としての魅力も備えていることをシティプロモーションに付加し、市内外や海外に発信することで認知度を高め達成度に繋げていただきたい。

(5) ビジョン5 潤い政策

意見なし

(6) ビジョン6 共創政策

- ・基本施策3「都市間連携の促進」について、都市間連携への市民の期待が大きいと思われるので、県央やまなみ地域での更なる連携事業を（具体的に）進め、厚木の魅力を全国に発信してもらいたい。
- ・基本施策3「都市間連携の促進」では、国内友好都市との受入や派遣事業から進展し、交流を維持し目標達成できるため事業の見直しや工夫が必要と考えます。また、県央やまなみ地域の広域連携を更に強化し、高規格道路の厚木秦野道路を「県央やまなみライン」（仮称）等と名称し、都心に一番近い開放感あるドライブコースとして観光の振興を図り発展に繋げていただきたい。